

2024年9月24日

## 令和6年度第1回 海岸工学委員会 幹事会議事録

**開催日時:** 2024年9月24日(火) 14:00-17:30(予定時刻を30分超過させていただいて終了)

**開催場所:** オンサイト(土木学会 CD 会議室)および Web(ZOOM)によるハイブリッド会議

**出席者:**

[オンサイト]森委員長, 渡部副委員長, 北野幹事長, 内山, 川崎, 木原, 下園, 高川, 田島, 西畑. [Web]有川, 遠藤, 大井, 越村, 嶋原, 柴田, 中下, 中村, 原田, 安田, 山中, 山城, 渡辺.

議事録: 木原, 北野

### ■前回議事録の確認(WEB 公開済)

前回委員会の議事録(WEB 公開済)を確認した。

### ■第71回海岸工学講演会論文審査:

山城委員と北野幹事長より, 2024年度土木学会論文集特集号(海岸工学)の論文発表審査について報告があった。

- ・ 登録論文数は 290 編(和文 270, 英文 20)。論文発表審査は今年から要旨のみで審査し, 分野がふさわしくないため 1 件を不採択。講演辞退は 1 編で, 委員会にて承認された。
- ・ J-Stage 論文審査では, 6 月 6 日が査読締め切り, 6 月 13 日が主査報告登録期限, 6 月 20 日が審査結果通知期限, 7 月 31 日が最終原稿提出期限であった。EM での論文受付において論文題目の冒頭に論文 ID(P0000)がない件名が散見されたため, テクニカルチェックで返却。また, Google フォームへの未入力の子名もあった。最終原稿のアップロード時に「最終原稿」ではなく「論文投稿」を選択して投稿されたものがあった。また査読者が, Accept(修正原稿依頼), Accept(最終原稿提出依頼), Accept(最終原稿受理)の選択を間違えられた事例があった。
- ・ 著者負担金について説明があった。著者負担金は 35,000 円から上限 40,000 円とされている。今年では EM と J-STAGE の値上げのため, 未定だが上限になるかもしれないが, 従来通りの価格になるよう努力する。論文集 DVD のみの頒布はネット販売のみとし, インボイス対応のため 3,300 円(税込み)を予定。
- ・ (今年の投稿数の回復傾向と発表審査の方法の変更により)発表投稿数が来年以降, 増える可能性がある。その場合, 来年度は特に3日が4会場になるため, 発表時間を短くするなどの対応を考える必要がある。
- ・ 本論文の査読担当数が多い主査が複数おり, 負担軽減のため, これまで副査だった編集小委員会の一部の委員には主査に入って頂くことを考えている。
- ・ 海岸工学論文賞・奨励賞の選考について。これまでは論文査読の点数が 4 項目 5 段階で, 3 名の査読の結果を対象としてきたが, 今回からは 4 項目 4 段階の 3 人に変更され, 48 点満点

の評点として、11編を選び、5名の審査員の評点も併せて、論文賞として3編、奨励賞として3編を下記のように選定。委員会にてメール審議し、決定する。

➤ 論文賞：

- ◇ 工代健太・佐々真志・梁順普・和田優希：吸い出しによる空洞陥没の二層フィルターを用いた復旧手法の研究
- ◇ 有田守・楳田真也・二宮順一・郷右近英臣・熊谷健蔵・越村俊一・由比政年：令和6年能登半島地震津波による能登半島東岸域の津波浸水・被害調査
- ◇ 磯部雅彦：線形理論に基づく斜面上の波の遡上高と反射率について

➤ 奨励賞：

- ◇ 豊田将也（共著者：春山和輝，森信人，金洙列，吉野純）：擬似温暖化経路アンサンブル実験を用いた高潮・洪水による複合氾濫特性の評価
  - ◇ 小倉一輝（共著者：遠藤徹）：大阪湾におけるCO<sub>2</sub>分圧の推定精度検証とCO<sub>2</sub>吸収能の長期変化
  - ◇ 岡田朋也（共著者：松葉義直・田島芳満）：3D LiDARを用いた面的な海岸過程の観測と分析
- 今後のことだが、EMをカスタマイズできるのであれば、点数も変更できるだろう。点数ではなく、論文賞に推薦したいという意見を重視するのもいいかもしれない。人による採点の違いが大きくなったかもしれない。このプロセスを今後変えるのもあり。

■第71回海岸工学講演会の準備状況について：

渡辺委員より、第71回海岸工学講演会の準備状況について説明された。

- 11月6日～8日にアトリオンで対面開催する。懇親会はANAクラウンプラザ。見学会は11月5日午後に秋田港で行う。最大28名参加可能。バス1台。
- 秋田市へ補助申請済み
- 前日シンポジウムは、見学会の後、以下の2つのテーマについてホールで開催。
  - 令和6年能登半島地震津波災害の教訓と日本海の津波災害の被害軽減に向けて(沿岸災害デジタルツイン研究小委員会)
  - 気候変動適応におけるリアルオプションを考慮した沿岸まちづくり(沿岸まちづくりにおける経済学的手法研究小委員会)
- 参加者に企業展示に足を運ぶよう、セッションの終了時に司会にアナウンスをお願いする。
- (幹事会の後に決定した重要事項) 講演会場では、プロジェクタのみ用意し、講演者の持ち込むパソコンをプロジェクタに接続して、講演スライドを投影することとした。(ビデオソフトやフォントの問題の回避などのため)

■第72回海岸工学講演会の準備状況について：

中下委員と山中委員より、第72回海岸工学講演会の準備状況について説明された。

- 11月25日から11月28日に、サンポート高松で開催予定である。

- 実行委員会に、中下委員、次回開催地担当の井手先生、次々回開催地担当の北野幹事長が加わった。
- 1,2日目は5会場、3日目は4会場(1会場は、別団体による先約あり)。
- 帯となる特別シンポジウムや企画セッションを無しにすれば、論文発表数は最大 293 編。従来通りの運用であれば最大 277 件編。企画セッションがある場合は、前日シンポにお願いする。定員 45 名の小委員会用の部屋も場合によっては使えるかもしれない。来年の講演数次第のため、3月の投稿状況を踏まえて、今後相談。
- 前日シンポで使える会場として 300 人を超えるホールが 3 つあるが、スタッフの人数が限られている。3 つのホールを確保しておく。前日シンポの数は会場の都合に合わせて設定することが基本。
- 企業展示スペースは、机と椅子2つとパネルを置けるスペースがあれば良い。人が通る動線上に設置するように配慮し、ホワイエに置くことを予定。
- 企業展示数が減ってきているため、他学会、他委員会で企画された実績があるリクルート用のブースや、ランチョンセミナーも今後は考えても良いだろう。

#### ■第 73 回海岸工学講演会の準備状況について：

山城委員より、第 73 回海岸工学講演会の準備状況について説明された。

- 九州エリアが担当であり、海洋開発シンポジウムや全国大会が熊本で開催されることを考慮して、大分市内での開催を検討中。大分市内であれば助成が出る。11 月の委員会までには場所と日程を決めたい。
- 来年度の高松開催では、教員や、アルバイトをお願いする学生の数が少ないため、次の開催地、さらにその次の開催地の方に実行委員に入っている。大分開催の場合、実行委員は九州大学と近隣の大学の教員が実行委員となるが、次の開催地、さらに次の開催地の方にも実行委員への参加をお願いするかもしれない。
- 北野幹事長：第 74 回は中部エリア開催であるが、名古屋ウインクあいちで海洋開発シンポが来年度開催されるため重複を避けるため、蒲郡が候補になるかもしれないと考えている。

#### ■第 59 回水工学に関する夏期研修会開催について：

遠藤委員より、2) 第 59 回水工学に関する夏期研修会開催結果について報告された。

- 8/29-8/30 で開催した。
- 参加者数は A コース 30 名、B コース 37 名の計 67 名であった。Cecom や海洋開発委員会のメールニュースで周知したが、少なかった。
- 台風 10 号が接近する中での開催のため、対面とオンラインのハイブリッド形式で開催した。現地参加者は A、B とともに 10~15 名程度。A コースの講師 2 名はオンラインで講義された。その他の講師は対面で講義した。
- 20 万円程度の赤字が見込まれ、水工学委員会と海岸工学委員会とで半分ずつ負担する方向

で調整中である。

- 今後、参加者数を確保するためには、オンライン要素があった方がいいかもしれない。また、参加者数が同様に少なかった 2018 年とテーマが似ていることから、希望するテーマを調査する必要があるかもしれない。民間は、コロナ以降、セミナーを聞きに現地へ行くのはハードルが高くなっている。また、若手でないと参加が難しいとのこと。現地見学会など、現地に行く魅力を加えることが望ましい。

#### ■第 60 回水工学に関する夏期研修会開催について：

山城委員より、第 60 回水工学に関する夏期研修会の準備状況について説明された。

- メインテーマは「水工学におけるパラダイムシフト」とする。
- 開催日は、第 1 候補が 8 月 28 日～29 日、第 2 候補が 8 月 25 日～26 日。
- 形式は対面＋録画によるオンデマンドとし、会場は九州大学筑紫キャンパス(あるいは博多駅周辺)を検討中である。
- 懇親会を開催予定である。
- 担当者(敬称略)は A コースが渡部(九大, 主担当), 矢野(九大), 丸谷(九大), B コースが山城(九大), 井手(九大)。
- 参加費は一般 16,000 円, 学生 10,000 円を予定。
- A コース, B コース共通の話題は、気候データセットの使い方, 流域治水. その他, 話題のキーワードとして, AI, 極値統計, 温暖化, 気候変動, 防災, カーボンニュートラル&SDGs を挙げている。極値統計の講師を北野幹事長にお願いしたい。11 月の海岸工学講演会で講師依頼をしたい。
- メインテーマの「水工学におけるパラダイムシフト」というタイトルが漠然としている印象であるため、山城先生から実行委員会に共有いただく。

#### ■Coastal Engineering Journal について：

内山 CEJ 小委員長より、Coastal Engineering Journal の状況について説明された。

- JCR2023 では、IF が 2.4 から 1.9 に下がった。2020 年に導入されたデジタルコンテンツ重視の導入効果の期限切れによるものと思料。
- Blue Carbon の Special Issue での被引用数が多い。
- Open Access にすることにより被引用数が 37%高くなる傾向にある。
- Progress of Ocean Wave Measurements の Special Issue では、出版社のミスにより掲載されなかった 1 編と、査読が遅れた 2 編を加えて Article Collection として公開している。
- 漂砂の Special Issue では 15 編を査読しており、そのうち 1 件が招待論文である。Royalty を招待論文の Open Access fee に利用されることが承認された。
- 出版社の Production 部門とトラブルがあれば、CEJ 小委員長に相談してほしい。
- 査読日数を短縮しても良いのではないかと。リマインダーをもう少し早くするなど。

#### ■沿岸域研究連携推進小委員会:

遠藤委員より、沿岸域研究連携推進小委員会の活動状況が説明された。

- ・ 委員に、第 59 回水工学に関する夏期研修会の講師を務めて頂いた。

#### ■広報・出版・WEB 開催小委員会:

嶋原委員より、広報・出版・WEB 開催小委員会の活動状況が説明された。また、海岸工学講演会のプログラム(DVD)の作成状況について報告された。

- ・ 海岸工学論文集データベースの更新が終了し、HP 上にその旨を掲載した。
- ・ その他、ソフトウェアアップデートなど、作業を進めている。
- ・ 海岸工学講演会で、発表のみのもののうち、CEJ に採択済みの論文が招待講演となるため、講演会プログラム作成のため、CEJ の採択状況を内山委員が確認して北野幹事長と共有する。

#### ■研究小委員会、研究会、WG の活動について:

- ・ 沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会

安田委員より、沿岸まちづくりにおける経済学的手法検討小委員会の活動状況が説明された。愛媛県を訪問し、愛媛県港湾海岸課と意見交換会を開催した。講演会の前日シンポジウムを実施して区切りだと考えているが、土木計画学研究委員会の方は活動を継続したいとの希望があるため、今後について相談している。

- ・ 沿岸災害デジタルツイン研究小委員会

越村委員より、沿岸災害デジタルツイン研究小委員会の活動状況が説明された。第 2 期の活動に向けた議論が始めている。第 2 期は Thematic Digital Twins に対して活動にシフトし、委員に構想を募集している。

下記の研究会・WG の活動については資料を確認の上、何か気になる点があればメール等で北野幹事長に連絡をする。

- ・ 波動と地盤の複合場における地盤材料の取扱方法に関する研究会
- ・ 沿岸域における気候変動適応策に関する研究会
- ・ 波動モデル研究会
- ・ 地域研究活性化 WG

#### ■その他

- ・ サーバーセキュリティ対策特命 WG

川崎委員より、サーバーセキュリティ対策特命 WG の活動が説明された。ML は月 10 件程度新規登録している。ML の管理・運用手引きを作成する予定である。広報・出版・WEB 開催小委員会に

引き継ぐための管理・運用体制を確認している。講演会が終わった段階で、嶋原委員と川崎委員とで HP アップデート対応について相談する。サーバーを 3 台借りているが、過去の論文投稿・査読システムが入っているサーバーがある。契約解除するとデータが消えるため、今後のサーバー契約解除について考える必要があるため、費用等を精査した上で 11 月の海岸工学委員会にて審議にかけたい。

- ・ 土論・編集調整会議からの報告

山城委員より、土論・編集調整会議の状況について説明された。

土木学会論文集編集委員会では、英文誌 J. JSCE を ESCI に収載することを目指している。通常号だけでなく、特集号の英語論文にも波及するものであり、各特集号の小委員会へ 3 つの案が提案されており、回答が求められている。それに対して、海岸工学委員会は案 3(英文誌と特集号を切り分け、特集号に投稿された英語論文は特集号で掲載する)で回答することとなった。

- ・ 海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG

北野幹事長より、海岸工学論文投稿査読新システム検討特命 WG の活動状況が説明された。8 月 29 日に WG を Zoom で開催。投稿システムに対する主査、副査からの意見、著者からの意見が紹介された。また、次年度以降の海岸工学講演会の発表および特集号(海岸工学)の著者負担金の考え方について提示された。北野幹事長と那須さんと相談して、次の投稿までに費用を HP に掲載する。現状の EM を利用すると混乱が起こることがわかっているため、変える/カスタマイズするのであれば早くに変えた方が良いのではないかという意見があった。

- ・ 海岸工学2040特命 WG

渡部副委員長より、海岸工学2040特命 WG の活動内容が説明された。スキヤニング(意見収集)、ビジョニング、シナリオ、デルフォイの順に進めており、スキヤニングで出た意見を基に、渡部副委員長がビジョン案を作成して、それに対して意見をもらうという進め方を考えている。将来ビジョンとして、温暖化・気候変動への適応、自然と共生する安定した海浜の形成、持続可能な海岸防災技術の構築が挙げられた。海岸工学講演会開催期間中に対面で WG を開催して、意見交換をする場を持つことを考えている。

- ・ 海岸関連省庁との連携 WG

田島委員より、海岸関連省庁との連携 WG の活動状況が説明された。海岸工学懇談会を年 4, 5 回開催予定である。7 月 25 日に国土交通省中央合同庁舎開催した。参加者は 47 名(対面は官 8 名, 学 7 名)。次回, 10 月 25 日に第2回を開催予定。場所は、東京都第二高潮対策センター(見学会+懇談会)。

- ・ 第4回日中土木学会ジョイントシンポジウム

北野幹事長より、第4回日中土木学会ジョイントシンポジウムの開催調整状況が説明された。10月開催予定であったが、延期されることになった。VISAの状況を踏まえて決定される。

- ・ ICCE

森委員長より、ローマで開催された ICCE2024 において ICCE2028 を大阪に誘致するプレゼンを行い、選定されたことが説明された。大阪、アテネ、カンクンが候補であった。CERCより、9月開催は台風が懸念されるというコメントがあり、5月開催が可能か調整している。海岸工学委員会には、全面的なバックアップをお願いしたい。主催をどうするか、土木学会が対応できるか、那須さんと相談する。為替変動の影響により想定外の黒字が出ることも想定されるため、その対応を考えておく必要がある。企業寄付の対応を那須さんが確認する。

以上